

音楽科学習指導案

授業日時 平成 30 年 8 月 27 日 (月) 第 3 校時
 授業学級 3 年 D 組 男子 20 名 女子 20 名 計 40 名
 授業会場 音楽室
 授業者 _____
 指導教員 _____

1 題材名

「情景を思い浮かべながら歌おう」(3年 歌唱『帰れソレントへ』)

2 本時の主眼

「帰れソレントへ」を歌う場面で、イタリアの風景や文化を知り、イタリア語で歌う活動を通して、イタリア人の陽気で情熱的な雰囲気を味わいながら歌うことができる。

3 本時の位置(全2時間扱い中 第1時)

<次時>曲の情景に合う表現を考え、曲想表現を工夫しながら表情豊かに歌うことができる。

4 指導上の留意点

- ・イタリア語を日本語訳と照らし合わせることで、イタリア語の意味が分かりやすくなるようにする。

5 展開

過程	学習活動	予想される生徒の反応や意識(◎)	教師の支援(・)と 評価	時間
導入	1. 「帰れソレントへ」の演奏動画を視聴し、どのような歌い方をしているのか発声のイメージを持つ。 2. 音程を確認しながら日本語で歌う。	◎歌い方がすごいな。 ◎こんな風に歌ってみたいな。 ◎こんなにうまく歌えるかな。 ◎普段歌うときとは違う歌い方だね。 ◎声がとても響いているね。 ◎ビブラートがすごいね。 ◎日本語はすぐ歌えそうだ。 ◎イタリア語で歌っているよりも柔らかい感じがする。 ◎イタリア語で歌いたいな。	・カンツォーネを実際に歌っているオペラ歌手の演奏動画をみることで、自分たちもこんな風に歌ってみたいと思うことができるようにする。 ・どんな歌い方をしていたのか生徒に問うことで、発声の仕方に意識を向けるようにする。 ・音取りをすることで、曲の雰囲気をつかんだり、旋律を覚えたりすることができるようにする。 ・お腹から声を出すこと、口の中を大きくすること、あくびをする時のように歌うなどのイメージを持つことで、より良い声で歌うことができるようにする。	17
展開	学習課題：イタリアの国や文化について知り、イタリア語の発音や意味を理解して歌おう。			
	3. イタリアの特徴、文化、風景、食べ物についてイメージを持つ。	◎イタリアはとても綺麗な町並みだな。 ◎イタリア行ってみたいな。 ◎イタリア料理おいしそう。 ◎イタリア人って陽気で情熱的なんだ。	・パワーポイントでイタリアの風景、文化の特徴を挙げることでイタリアについてイメージを持ちやすくする。 ・イタリア歌曲の歌詞の意味が情熱的(恋愛系)な部分を抜粋して生徒に伝えることでイタリア人のイメージを持ちやすくする。	8
	4. イタリア語の朗読をして、発音、意味を理解する。	◎イタリア語の読み方はローマ字読みに似ている。 ◎イタリア語の発音って難しいな。 ◎巻き舌難しいね。 ◎イタリア人の感情表現は情熱的だね。 ◎リズムの中にイタリア語を入れるのは難しいな。 ◎言葉が多いから難しいのかな。	・発音の音源を聴きながら教師も一緒に発音練習を行うことで、生徒も安心して発音練習ができるようにする。 ・難しい発音は、難しい単語を取り出して発音練習をすることで、難しい発音の単語が読めるようにする。 ・朗読をしていくことと同時進行で日本語訳もすることで、イタリア語で歌うときにも歌詞の意味が分かるようにする。 ・イタリア歌曲の歌詞で情熱的な表現を紹介することで、イタリア人が情熱的であることが分かるようにする。 ・芙蓉明子の日本語訳とイタリア語の直訳を比較することで、イタリア人の感情表現の仕方について分かりやすくする。	10
5. イタリア語でゆっくりと歌う。	◎イタリア語で歌うのは難しいな。 ◎言葉が多いから歌いにくいのかな。 ◎ゆっくりなら歌えそうだ。	・短いフレーズで区切りながら、ゆっくりとしたテンポで歌うことで、イタリア語で歌うことへの抵抗をなくす。	10	

		<p>◎日本語で歌ったときとよりもかっこいいな。</p> <p>◎曲の中で巻き舌をするのは難しいな。</p>	<p>・日本語で歌ったときの発声法を思い出すことで、イタリア語で歌うことだけでなく、発声にも意識を向けてより音楽的に表現することができるようにする</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価：イタリアの国についてイメージを持ち、イタリア語の発音、意味を理解して歌うことができたかを、歌う活動や、ワークシートから評価する。</p> <p>達成できない生徒への手立て：イタリア語の読み方がローマ字読みに似ていることや、イタリア語の発音練習する際に、教師が横で一緒に発音練習をする。</p> </div>	
終末	6. 振り返りをして次時への課題を持つ。	<p>◎イタリア語で歌うことができた。</p> <p>◎口の中を大きくすることで大きな声で歌うことができた。</p> <p>◎次はもっと表現を工夫したい。</p> <p>◎もっと情熱的に歌いたい。</p>	<p>・振り返りをする中で、歌うときに気をつけたことや、難しかったこと、次時にチャレンジしてみたいことを確認できるようにする。</p>	5

8 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ・どんな曲だったかな？ ・オペラ歌手はどんな風に歌っていたかな？ ・いい声で歌うためには？ 	<p>学習課題：イタリアの国や文化について知り、発音や意味を理解して歌おう。</p>	<p>準備するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CD ・ワークシート ・動画 ・パワーポイント ・日本語訳の掲載されているプリント資料。
	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリアってどんな国なんだろう。 風景 建物 食べ物 	